

「箱入り娘」⑦

‘16.06.05 藤井 輝

5月早々、八王子のニャンコのリボンとココアを5日間預かることになった。娘一家が旦那の実家の法事で出かけるからだ。

我が家の箱入り娘“モカ”は、どうも歓迎ムードではない。小さな唸り声を出して威嚇しているのだ。その反面一見無視しているようだが、かなり気にしているから素直じゃないのだ。(写真①)

私はモカに言っているのですよ、「あなたの方が体も大きいし、1年年長なのだから仲良くしてあげなさい」って。

猫の若い頃の1年年長とは、人間に例えると7～8歳年上になるから、もっと大人の落ち着きを見せなければならないのです。飼い主としては、恥ずかしい娘です。

でも、今回は以前より短時間で馴染んできたようです。写真②は、私のベッドの上にいるモカに、「遊ぼうよ」と近寄るココア。モカが「勝手にすれば」と言ったかどうか知らないが、やがて2匹は私のベッドの上でくつろいでいました。もう1匹のリボンはマイペース、一番体は小さいのだが、どっこい、一番気が強い。

私はこの子たちのトイレ掃除が当番。つまり、猫たちから視れば私は掃除のおじさんで、家内は給食のおばさんなのだ。

猫も一匹ならば、人との接触も多いのですが、複数になると猫同志の接触が断然多くなるため、極端な言い方をすれば、人は餌だけくれれば好い存在となるのです。

最近は猫ブームで、本が沢山出ていますし、TV でも人気を得ています。CM では見惚れた後で、今のは何の CM だった、なんてよくあることです。



① モカちゃん遊ぼう



② モカちゃん遊ぼうよ



③ 勝手にすれば



④ マイペース(リボン)



⑤ 月下美人



⑥ モカ美人(?)